

(新) 21世紀環境教育AAAプラン推進事業

55百万円(0百万円)

総合環境政策局環境教育推進室

1. 事業の概要

持続可能な社会を実現するためには、国民一人ひとりが環境への関心と理解を深め、ライフスタイルや社会経済活動を環境負荷の少ないものに転換していく必要がある。平成19年6月に閣議決定した「21世紀環境立国戦略」においても、戦略の一つに「環境を感じ、考え、行動する人づくり」、その具体的方策として、「21世紀環境教育プラン～いつでも、どこでも、誰でも環境教育AAAプラン～」が示され、家庭、学校、地域、企業等における生涯にわたる質の高い環境教育・学習の機会の多様化を図るとされた。

本事業では、そのような「21世紀環境教育プラン」の趣旨、さらには、改正教育基本法において、教育の目標の一つに「環境保全に寄与する態度を養うこと」が規定されたことを踏まえ、特に学校を中心として行われる環境教育を強化・促進するため、以下の事業を行う。

2. 事業の内容

発達段階に応じた環境教育の「ねらい」等策定に関する調査研究

未就学児を含めた発達段階(学校段階・学年)に応じた環境教育のねらい(目標)の策定、環境分野・領域別の学習内容の調査研究等。

21世紀子ども放課後環境教育プロジェクト

文科省・厚労省で推進する「放課後子どもプラン」と連携した環境教育プログラムの作成、モデル授業の実施等。

地域のメディアと企業等との連携による環境教育促進事業

学校を舞台に地域メディアと企業等が協働して行う環境教育の推進、また、企業が行う環境教育をより普及させるためのセミナー等の開催。

3. 施策の効果

放課後を含めた学校での環境教育を推進するとともに、地域のメディアを媒介として、その成果を家庭や地域等に広く周知することで、子どもだけでなく、大人に対する環境保全の取組を促し、持続可能な社会が構築される。

4. 備考

調査費 55,163千円(上記事業に必要な各種調査)



21世紀環境教育 AAAプラン推進事業



発達段階に応じた環境教育の「ねらい」等策定に関する調査研究

背景

- (H19.3ヒアリング調査 以下現場の生の声)
- ・環境教育で教えるべき内容を体系的に示したものがなく、現場の環境教育は各教師の裁量に委ねられている現状
- ・環境教育の内容を、発達段階別・領域別に、具体的かつ体系的に示したものを全国の学校に示すべき
- (H19.6.20学校教育法の一部改正) 第21条「義務教育として行われる普通教育の目標」の一つに環境教育が規定
- ・学校内外における自然体験活動を促進し、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。

発達段階に対応した環境教育の「ねらい」策定

環境分野・領域別の学習内容を示した環境教育マトリクス作成

教育段階	分野・領域	環境教育マトリクス				
		温暖化 エネルギー	廃棄物 リサイクル	自然保護 生物多様性	化学物質	水・大気 公害
幼稚園				○○○○		
小学校	1年			○○○○		
	2年			○○○○		
	3年	□□□	△△△			▽▽▽
	4年	□□□	△△△			▽▽▽
	5年			○○○○		
	6年			○○○○		
中学校		□□□	△△△		××××	
高校		□□□		○○○○	××××	▽▽▽

策定した「ねらい」と学習指導要領とをリンクさせ、各段階で学ぶべき内容を各学校現場に分かりやすく示す。

「環境保全」のみならず「経済開発」や「社会発展」の視点も盛り込んでいく。
【注】「発達段階に応じたねらい」の記載は「環境教育のねらい」の欄に示す。

効果 「ねらい」とともに、「どの段階で」「何を」学ぶか示すことで、教師が環境教育・学習に取り組みやすくなり、学校での環境教育が推進される。

21世紀子ども放課後環境教育プロジェクト ～After School Environmental Education Project 21(ASEEP21)～

環境教育プログラム作成

- ・あらゆる学年の児童が使用可能なプログラム
- ・短時間で学習可能

パイロットモデル地域での試行実験

- ・講師派遣
- ・全国約300市町村

指導者研修

- ・自治体担当者、放課後子どもプラン関係者対象
- ・全国約20ヶ所

提供 環境学習機会の拡充 (環境教育AAAプラン)

子どもの安全で健やかな居場所を確保、勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組の充実(全国小学校区23,000校区)



放課後子どもプラン(文科省・厚労省連携事業)

地域のメディアと企業等との連携による環境教育促進事業

